

沙石集 九・十 （天和三年版）

梶山女学園大学デジタルライブラリー

梶山女学園大学図書館

沙石集

終九十

沙石集卷第九上

目錄

紫菫山房藏

淨土房の道世の事

吾野の執行道世の事

俗士の道世門の事

強盜法師の道心有る事

悪縁を値て發心したる事

阿波岐曾良庵書



91B1895

汝名集卷第九 上

淨土房の遁世の事

伊豆の山也。淨土房と云ふ字通ありたり。時の
 二和尙なり。一和尙の老僧。名を福と云ひて。さ
 づかたりし中。ゆききくさくひりきぬ。一
 和尙。まれなる。法師の死。事ふたうき。一
 くまひのんといふ。思ひぬ。事として。何ゆき。一
 和尙の心。世にや。一和尙。なり。法。人。と
 せし。や。ひ。お。部。當。も。な。く。て。一和尙。成
 別當。なり。思ひ。下。なり。ゆ。く。ひ。ひ。り
 と。家。と。り。道。心。あ。る。信。ま。く。お。ひ。ひ。り

曇曇法師被禱と注しとてその國の快
 樂と安んず受果のくまは祿がひく度な生の
 心ありはけしびをうらむと云り世間の人又欲の
 たのしき名利の執拗くして穢去をゆとよ
 心あり病死憂患修くの苦ありありた然おそり
 ぬらうたなくいふ思ひあり世路またたけ
 忘れともむかひのくちやせはるあり
 かくらん丹付てい善悦心と發し修生の功を
 修むと下もまじふひくく人ありていさひで
 淨土あり有縁無縁ともらびんとてそらへ
 なるは流轉生死の業因の修せともくはのさ

あらゆる淨土菩提の妙業はとて是ともく
 思ひも念もいふうらむ心れありちやまは
 ころろ業のひくよまらむ共むくとうく志
 うもた南來れ生所は今生の心にこそなるを
 業因果報ありありつる三毒又欲乃無業とぬま
 三惡道趣乃無道と祿ありまらむお戒修善とぬ
 淨土天上の吾等と祿あり人也このゆへにさ
 くらん身ありありひくくそに教あり餘念とま
 った祿ありつるありありこのむくそに教あり三心を
 具するありありのむくくは生れ得りと乾なり念
 念とそらうのそと正定の業とありと教あり

滅して其後又罪なくして其途にあづかる。三心具
 足して八十億劫の罪なきお世に生れ。右徳の釋
 れ心そくより。今世人も宿昔を悔り心も決定せむ
 せしむ。だごし。とてお教わひ。お懺悔しわひあふ。
 平生の心さうも。深終若若苦患し。もせあ
 被正念そされ。三心とていふ。とてそまてゆき。下生
 下生乃人初てわひ。勇猛され。罪障も滅し。日
 擲のむひもあつ。今の人わひあふ。をてそ
 心さうも。いひ。さうり。とてそまてあり。
 條終も。て。悔とわしん事。し。は。海
 しく。う。人。な。う。と。と。共。あ。う。人。を。病。と

り。心。意。と。て。條。終。よ。か。る。ま。て。日。暮。う。り。く
 ち。あ。も。思。な。り。と。い。ふ。と。う。事。う。あ。う。と。あ。う。と
 我。近。年。疲。病。よ。人。多。く。病。死。れ。む。と。さ。う。い。ふ。
 平生のされ。う。と。う。と。ら。ら。ま。と。云。身。の。も。あ。う。海
 ゆ。と。り。と。い。ふ。と。結。く。思。ひ。入。て。三。心。お。懺。悔。せ。む。
 念。切。換。り。て。性。生。乃。ち。事。と。う。と。う。と。う。者。なり。
 世間の愚信の善悪因果の道理もさういふ。さ
 なる。と。い。ふ。事。あり。平生。し。も。う。く。あ。も。條。終。よ
 八念佛して性生せん。と。い。ふ。人。又。今。生。し。て。わ。く
 ち。あ。う。と。い。ふ。事。も。八。念。佛。と。い。ふ。事。も。あ。う。佛。と。な。う。と
 一。と。い。ふ。と。う。と。い。ふ。心。と。や。れ。の。世。に。多。う。と。い。ふ。と

ちよ。入久く苦とくくと統たり。さきハ妻子の
め。心とくく。罪とけく。れゆて。然るを。子
みいあ。く。り。さ。子。い。れ。る。も。あ。る。ま。又。一。向。り。
か。は。つ。さ。う。も。あ。く。び。あ。子。あ。て。う。く。も。わ。さ
と。じ。も。び。罪。と。け。く。り。又。悪。人。の。子。罪。と。け。れ。れ。也。
亡。せ。れ。親。苦。と。受。れ。し。る。さ。ハ。あ。子。す。ま。つ。ら。あ。る。也。
又。孝。順。の。心。ま。ま。く。淨。藏。淨。眼。の。し。く。知。識。と。究
導。く。子。ハ。ま。ま。子。が。善。縁。なり。一切の。中。皆。四。句。の。不
同。ま。ま。く。得。失。あ。ひ。ま。ま。り。つ。る。也。と。り。く。失。と。去。
得。付。て。仏。道。入。た。り。と。と。一。物。得。失。を。
人。に。覺。悟。あ。る。の。の。と。わ。さ。ま。入。ち。う。へ。だ。ら。る。は。

醫師の業と毒との用なり。下醫ハ業と毒とをかり。
中醫ハ毒と毒とを用ふ。上醫ハ業と毒とを用ふ。上醫ハ
毒とくく。り。丹。用。ふ。道。と。以。く。ち。う。へ。邪。を。さ
む。か。た。く。ん。人。の。徳。子。あ。て。知。識。と。さ。ひ。し。
く。り。て。悪。と。け。く。り。因。縁。と。甘。ん。か。家。修。り。ち。う。子
と。く。く。こ。う。つ。ら。ま。ま。く。下。醫。の。業。と。毒。と。を。さ
む。か。り。中。醫。の。人。ハ。あ。子。と。い。ふ。縁。と。善。子。と。い
ふ。縁。知。識。と。い。ふ。縁。中。醫。の。業。と。毒。と。を。さ。む。か。り。
賢。士。ハ。あ。子。と。知。識。と。を。さ。む。か。り。頻。婆。沙。羅。韋。提。希
の。し。く。な。る。上。醫。の。毒。と。業。と。を。さ。む。か。り。と。く。く。
さ。む。か。り。の。あ。く。び。親。あ。る。と。じ。も。び。あ。を。と。換

妄業善提のそらりたりとす。妄始の妄的。圓
 是の心より建立とす。知見も知とす。此
 もれりら妄的の本とす。結くこの心とす。
 まへて佛道。お意とす。修行とす。此の
 道世の風情まらく。お家乃の儀あり。此の
 家よりわけて心成とす。戒の塵より。心
 道とす。お意の道人なり。此の強盜は所
 が意系ゆめりの道世の心あるべし。右徳菩薩乃
 戒と釈と於付て。約人四句とす。一。二。三。
 外へ浄く。内へ深なる。此の佛法の中は賊なり。
 戒とす。此の戒を放逸なるべし。信施持し

か。戒をなすつて。か。と。六千の六鬼賊
 賊と云て。その是の何と云。此の約人四句
 一。二。三。四。約徳なり。七。び。約人四句とす。
 此の妄間の業とす。心あり。人。結とす。右
 南山の分。此の賊と釈。此の律の中。戒とす。
 一。四。此の分。此の四分齊と云。右利意
 ため。此の分。此の賊分齊とす。賊の分。賊と云
 人の財とす。此の戒行等の徳なり。此の施の
 福とす。此の分。此の財とす。此の分。此の財とす。
 罪分齊の當來の意。此の待。福分齊を
 人天果報とす。此の道分齊。涅槃と期。此のなり。

此後 止

事とるんしてゆりしや。ありはまゝくよ。幾くも
む。つら此母てゆりし。又女人の小袖のな。年乃りて。な
くと同々れと。有のしうに。りりもむ。此入道よと
らことおて。そそ。ハハ。色ハ。そそ。が。吾知。一。こ
よて。そおも。と。れ。彼女ハ。心。ざ。い。ゆ。く。ゆりし。志。也。
某。う。れ。よ。と。く。也。と。て。出。家。し。て。ゆ。り。と。ゆ。縁。を
く。ハ。い。そ。う。仏。道。修。行。の。う。ら。と。な。り。道。よ。れ。り。ひ
入。つ。と。ゆ。り。づ。と。吾。知。識。母。一。と。ハ。色。を。外。の。日。行。有
を。し。し。び。と。も。母。彼。菩。提。と。う。う。ひ。た。と。ん。と。て。
た。が。ひ。し。源。と。あ。が。り。り。と。そ。た。に。勤。め。り。ひ。く。二
ハ。と。と。母。佛。終。正。念。し。と。り。り。母。り。り。今。一。人。と。當

何とゆりしと。や。世ももわらば。何と。ひつ。た。く。た
母。菩。提。母。思。ひ。入。と。回。り。母。女。に。う。う。づ。く。と。母。那。く
し。と。ハ。世。に。あ。う。と。と。れ。た。れ。が。り。歎。と。も。さ。い。や
し。と。常。に。習。た。れ。た。必。し。と。發。心。し。ら。る。希。に
只。あ。う。ゆ。と。さ。事。は。や。し。に。の。こ。思。ひ。あ。つ。れ。り。が
こ。り。々。れ。心。さ。ゆ。也。生。死。の。本。母。ハ。會。離。の。悲。ん
と。ぬ。習。と。あ。り。か。う。と。お。と。と。て。道。母。入。人。れ。あ。さ
し。と。愚。な。も。歎。あ。ん。ん。此。わ。と。と。出。び。て。か。く。
衆。苦。充。滿。乃。世。界。と。と。そ。と。と。快。不。退。也。
淨。刹。と。終。づ。と。さ。め。え

沙石集卷第九上終

沙石集卷第九下

目錄

證月房上人の隨世えんせの事

迎講の事

妄執まがしよりく魔道まどうを為なす人の事
靈たまの佛ぶつはは純じゆんとと物もの終はつの事

海名集卷第九 下

澄月房上人の遁世の事

松乃尾の澄月房の上人は三井の流を受けて三密の
行をひく。道心ある人とやめて遁世の事トめの
事と人の流りトハ人間みなぐくてもとよりか
一如説修の事トて際終せんといひたりと。只一人
松の尾の奥か人ももてまひりて七日か内料と
用えしでより店とてしめて修りせりたり。
七日の食つてて芋の莖のひらりと水に入れてや
たのひらりと食て今日余とのんと思ひまひり
程も藪を山人見あひく。其日食ハ伏書トて

りり。又のりらるるをバツてして。次乃目水に
入て食よあてぐ。又山人のく休養一りり。
其後まて人まわひて。時料とらりけき。八法并
のりらるる。三実の真助。法天の守護のゆゑ。次
弟母寺とぬく。如法勤行年つて。條終目出
度して。おろし。被に。なりと。中。未代。六。を。那
こ。事。なり。ま。實。よ。佛。道。身。と。入。て。如。法。
修。行。せ。ん。人。衣。食。の。二。事。く。べ。く。と。比。良。の。心。
真。如。房。と。や。め。く。上。人。と。止。觀。修。行。の。ゆゑ。廿。日
彼。村。科。用。意。して。比。良。の。山。へ。入。て。修。行。せ。し。む。

のり。あ。と。山。人。ん。あ。い。く。休。養。一。り。り。と。や。め。く。
く。く。お。か。り。ま。さ。ら。り。山。野。の。り。こ。め。に。海。の。鱗。計。
十。惡。の。業。よ。り。り。て。げ。さ。な。る。さ。む。ひ。な。る。と。ま。衣。
食。任。意。と。の。り。り。を。な。る。と。り。毛。と。被。う。る。と。ま。さ。
つ。穴。み。す。と。中。に。お。ろ。く。分。の。力。と。た。と。く。果。
報。の。り。り。ん。や。又。戒。十。善。の。因。縁。み。り。り。て。人。間。り。
生。れ。ら。り。衣。食。任。意。と。の。り。り。何。る。と。一。業。報。と。ま。
さ。ま。天。運。み。ゆ。り。と。ま。の。世。と。わ。ら。り。と。ま。ま。
身。と。た。と。り。て。憂。歎。す。ハ。身。も。心。と。や。と。ら。り。と。一。
お。ろ。く。り。り。と。過。分。の。推。拜。お。ろ。く。り。り。と。果。報。と。の。
が。右。圖。利。養。の。心。と。り。い。ま。く。と。と。れ。が。り。り。



不足小つと云ふはなるべし。然るに、
欲心ほつこのそのさへ海うみの事ことと云ふは、頂たか生なま王おうの南州なんしゅうの王
なり。不足ふそくの思おもひて、四州ししゅうと打うたれ、不足ふそくの思おもひて、
四天王しつてんわうと云ふは、忉利天たうりてんと打うたれ、不足ふそくの思おもひて、
て墮おつて死しぬなり。さきハ身みの分ぶんと云ふは、振おりて、南
都なんとの故ゆゑ一乘院いちじやういんの故ゆゑ光明院くわうみやういんの信しん心しんを以もつて、世よを
りつ時とき、神かみ物もの終はらぬ人ひとまが、心こころを貪あましむる也なり。
作つくる光ひかりの院いん、さきハ作つくる光ひかりの院いん、作つくる貪あましむる人ひと、
と思おもひて、人ひとまが、心こころを貪あましむる也なり。一乘院いちじやういんの作つく
らむ也なり。心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。

心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。
其果報そのくわうの如ごとく、身みの如ごとく、事ことの如ごとく、心こころの如ごとく、
なり。二三人にさん具ぐと云ふは、人ひと十人じゅうにん具ぐと云ふは、人ひと十人じゅうにん具ぐと云ふは、
衣い食じき什物じきぶつとも、果報そのくわうの如ごとく、身みの如ごとく、事ことの如ごとく、
不足ふそくありと作つくる也なり。心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。
請こころは、心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。
と云ふは、心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。心こころを貪あましむる也なり。
金剛王院きんかうわういんの信しん心しんを以もつて、世よを
りつ時とき、神かみ物もの終はらぬ人ひとまが、心こころを貪あましむる也なり。

法華の
七

悔りんと。佛の四無うとて誓とありては。佛天
吾神日月星宿等世果ゆらりてなり。なむと
其が誓ひありとん。たひ又は道修のりは
み。今心一ありとも。なれのまのさるるん
多生曠劫つづつてこそとてあり。又一期を
わづの身つとらん。あ名をわづとて。合
場中。命とばつるなり。ひぞう。そまの顔面と云
も。わづの業をり。あつひとつる事。も
或いは。海は縁を。つる。願とて。ゆ
る。とある。又ゆ。く。の。ま。く。命と
め。今世尚其益なり。ま。ま。ま。ま。

一旦の我執名を。命とばつるなり。ひぞ
は道中して。佛の引攝あり。菩提の岸
も。下。つづつ。んと。命と同一く
ハ法あり。ま。ま。古人の云く。法ありて死
と。法ありて。死と。法ありて。死と。死
細粒懐あり。法ありて。生と。沈遠長劫
と。或は。父朝。道とやめて。父。死と。死
と。一期なり。一期なり。ま。ま。ま。ま
つ。な。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
ち。修。行。と。つ。ひ。心。地。と。用。通。一。淨。刹
性。生。して。菩。提。の。妙。果。と。ひ。く。ん。と。

の事ありとせりありの事ども事なりとせり
もども人乃身也ハハありとせりなり事なり
と。ちかてしりては。迎備とありて聖衆の事
色乃粧とて心とせりとあり。條終のあり
世にやとあり事なりとしりては。佛菩薩の
世來上人の事なりとありと細てとあり。因
さく聖衆の事なり儀式年久くありて。因
ひのしりて條終とありて聖衆の事なりとあり
りて。因出度性生乃せりとあり。迎備のあり
たりとあり。又慧心の條終の脇息の上りてあり
たりとあり。佛の事なりとありとあり。案
りての事なりとあり。實物とあり。その
道とあり。人ハ寤寐を事なりとあり。下
習とあり。ありとあり。懷念とあり。存せんとあり
り。修とあり。ありとあり。條終正念の事なり
とあり。ありとあり。ありとあり。始終の事なり
著あり。ありとあり。人生の事なり。ありとあり
ありとあり。ありとあり。事ハあり。流轉生死の事
業也。正念分明なり。ありとあり。病患苦痛の
時念あり。條終の事なり。ありとあり。ありとあり
彼上人の同様なり。ありとあり。ありとあり。世間の事なり

の事ありとせりありの事ども事なりとせり
もども人乃身也ハハありとせりなり事なり
と。ちかてしりては。迎備とありて聖衆の事
色乃粧とて心とせりとあり。條終のあり
世にやとあり事なりとしりては。佛菩薩の
世來上人の事なりとありと細てとあり。因
さく聖衆の事なり儀式年久くありて。因
ひのしりて條終とありて聖衆の事なりとあり
りて。因出度性生乃せりとあり。迎備のあり
たりとあり。又慧心の條終の脇息の上りてあり
たりとあり。佛の事なりとありとあり。案
りての事なりとあり。實物とあり。その
道とあり。人ハ寤寐を事なりとあり。下
習とあり。ありとあり。懷念とあり。存せんとあり
り。修とあり。ありとあり。條終正念の事なり
とあり。ありとあり。ありとあり。始終の事なり
著あり。ありとあり。人生の事なり。ありとあり
ありとあり。ありとあり。事ハあり。流轉生死の事
業也。正念分明なり。ありとあり。病患苦痛の
時念あり。條終の事なり。ありとあり。ありとあり
彼上人の同様なり。ありとあり。ありとあり。世間の事なり

今生の身命しんめいとわたり。業ごうを富とみとて心に結むすり。さすまのい。正月しょうげつハ母はは。ううなれたる事ことを
看みあつりて。今生こんじやうれいれい井い事こととの志こころあつり。玄
年ねんとそりし色いろいい井いととと。海うみよりよりかた
き母ははよりよりして。年ねん毎まいいい井いあつり。さるさる程ほど。
死しととふ事ことおおそりくく。海うみりりささ母はは。文字ぶんじ
の書よみれれくくれれりりして。空そらあありりののとといいくく。
酒さけとののじじも。ままままののこころろ後のちつつのの物ものれれびびも。
字あざなのの海うみりりくく思おもななままこころろををままりりしし。空そらままのの文ぶん
字あざなのの虫むしささももとと海うみりりささ母はは。正月しょうげつハ母ははりりれ
くくくく。死しのの身み命めいとと家いえのの母ははもも入いりりくく。ささりりも
つつりり海うみりりくくくく。畜ちく母ぼととななままととも。死しののこ
ちち母ははのの志こころハ。葬まう送そうのの依よりりくく。經きやうりりハ。肉にくを
食くははりり白しろとといいたたるるののとといいつつ隊たいなりりとといいり。
かかとといいくくもも海うみのの海うみさされれつつ。精しやう進しん業ごう齊さい。戒かいと
たたりりくく佛ぶつままつつ人にんととも。壽じゆ命めい福ふく徳とくもも目めあありり
くく海うみのの志こころ。正月しょうげつハ。尤なほ此こゝ海うみのの志こころとといいくく。世よ間まののこ
のの志こころもも也なほくく道みち理りなりりくくなりり。海うみりりくくくく海うみのの志こころとといいくく。
死しのの身み命めいとといいくく。大だい四しなりり。正しょう財さい寶ほうハ。死しののこ
ろろわわくく海うみのの志こころももとといいくく。人にんとといいくく。海うみのの志こころとといいくく。
とといいくくもも氣き交かわりりくく者ものとといいくく。海うみのの志こころとといいくく。
ららりりのの身み命めいとといいくく。とといいくく。海うみのの志こころとといいくく。

つりり海りくくく。畜母ととなまとも。死のこ
ち母の志ハ。葬送の依りく。經りハ。肉を
食はり白といたるの
かとも海の海されつ。精進業齊。戒と
たりく佛まつ人とも。壽命福德も目あり
く海の志。正月ハ。尤此海の志と
の志も也く道理なりくなり。海りくく海の志と
死の身命とといく。大四なり。正財寶ハ。死
のわく海の志もとといく。人と海りくく。人
といくも氣交わりく者といく。海の志と
らりりの身命とといく。と海の志ありく。

顛倒の心こそ。世間のあきらむ道理と云はれり。世
ゆゑに法法の義理因ては。ひくひらありて。おろ
たり凡夫のなり。ひくひら。たは佛性因。有。世間
か世の道理。お蔵の縁。ありて。おろ。と云はれり。
あり。常任をぬ道。ありて。顛倒の邪執と
云はれり。

妻執よりく魔道より成る事

中此のなり。此宰相と云や。あり。女を優り
賢人のそ。と云はれり。人知家。ありて。おろ。ゆゑに
おて念佛のゆゑと云。ありて。おろ。云はれり。おろ。
あり。ひくひら。道心。ありて。おろ。あり。おろ。

最後の時。念佛の教返。ありて。おろ。ありて。おろ。
最後の時。念佛の教返。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。
おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。ありて。おろ。

ときをやつてを。年暮思ひも経るひるまで。
 十念のせしむると。妄念まうげんは紛りて。性生じやうじやうとてしを
 こころひわつあり其故ゆゑは。當世たうぜの心ゆつりて。心濁しんじやく
 する事。つひに心こころはくちして。我われ其官そのくわんは有て。其
 る事ことつひにさうして。ひきまはさ。さうりさうり
 の事ことはわつとあんと。うらなう事こと。あつても
 せむ心こころの中なかづり。人ひとは道みちと思おもふ。妄執まうしやく
 を執とぐ。くちして。せしめたり。なれ道みちは入いりて
 そころりたれ。世よとて。ゆつと山やまのす。實まことの
 道みちは入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 して。ゆつて塵勞ちんろうの中なか。心濁しんじやくと。妄まう念げんは

性生
 心濁

十念

著ちやく也や。道みちは入いりて。心濁しんじやくと。妄まう念げんは
 賢人けんじん道心だうしん者しやと。あつて。上かみの執心しやくしんと。世よの
 の。利生りじやうの一方いっぽうと。あつて。あつて。あつて。
 思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 佛法ぶつぽふと。世よの道みちは入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 長ながく。世よの道みちは入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 と。常とこの思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 りん。念佛ねんぶつの。世よの道みちは入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 常とこ州しゆう。真壁まへの。世よの道みちは入いりて。思おもひさう。わら妄念まうげんとて。つれ
 の弟子でしと。道心だうしん者しやと。あつて。上かみの執心しやくしんと。世よの

人の懐胎より一や二も三も心乃中若くは
 そゑりる。又野山に於て古上人の弟子阿耨多
 羅三三昧人ぞりん。後世にそせりて
 ける。子息摩訶子なりんと。父母師長乃懐胎のわ
 ることも。ありのまにひいりんと。ふゆく是もつる不
 て。これやうも云々なり。ある事。何れも
 あらまひまにひきて。我も念ふよりそや。いふ事
 是れわも。こころあつらん事。七魂のさるん
 因縁たかふ久い。未代は多く。八性生とつる。以
 わり。愚人の中。まもる。縁終に。つる。は
 心とて。愚人も。縁終に。愚業か。
 といふ見と起して。罪とわらふ。即ち
 三悪口絶の業とつる。世は多く。濁世は
 は多く。魔性生あり。つる。愚人の生まむ
 心とて。十念成軌。宿昔用發。たふん
 實も性生とて。宿昔とあり。正念の心。極たま
 らん人の。よく。性生とつる。あつらん
 ゆく。愚人の心。ひうう。つる。性生せん
 教門のつる。魔也。愚人とて。つる。吾人も。妄
 念あつる。縁終に。事とて。又せん
 ころれわ。つる。妄念いつる。吾業の
 るゆかり。此理を信して。因果とて。つる

人の懐胎より一や二も三も心乃中若くは
 そゑりる。又野山に於て古上人の弟子阿耨多
 羅三三昧人ぞりん。後世にそせりて
 ける。子息摩訶子なりんと。父母師長乃懐胎のわ
 ることも。ありのまにひいりんと。ふゆく是もつる不
 て。これやうも云々なり。ある事。何れも
 あらまひまにひきて。我も念ふよりそや。いふ事
 是れわも。こころあつらん事。七魂のさるん
 因縁たかふ久い。未代は多く。八性生とつる。以
 わり。愚人の中。まもる。縁終に。つる。は
 心とて。愚人も。縁終に。愚業か。
 といふ見と起して。罪とわらふ。即ち
 三悪口絶の業とつる。世は多く。濁世は
 は多く。魔性生あり。つる。愚人の生まむ
 心とて。十念成軌。宿昔用發。たふん
 實も性生とて。宿昔とあり。正念の心。極たま
 らん人の。よく。性生とつる。あつらん
 ゆく。愚人の心。ひうう。つる。性生せん
 教門のつる。魔也。愚人とて。つる。吾人も。妄
 念あつる。縁終に。事とて。又せん
 ころれわ。つる。妄念いつる。吾業の
 るゆかり。此理を信して。因果とて。つる

心執著ありて。浮世と号するごとく。さうり。身命
 と幻のまじり思ひて。心少慮りの。清く心とさうりや
 うふなり。この心より。念佛修善とて。修とさうり
 或又観念所縁とゆへ思ひ入。お難解脱の道と
 物もさうり。念縁も持たさうり。道の入とさうり
 第一。當世の道世多く。第一第二重の侍り。
 第三重の希なり。や。道世の人の中。は。海あり
 佛法とさうり。座禪觀念とさうり。人も。偏執多く。
 法門は。付て。も。推舞も付と。是れ。我相以
 一と。と。た。ぬ事。つと。ゆ。と。流。季。の。あ。ひ
 象の窓とさうり。身は。つて。修。校。尾。と。さうり。
 つて。解。め。と。是。て。佛。は。回。て。ま。り。一。中。を
 釈迦佛の遺法の身子。あう。と。さ。家。と。お。さ。り。と
 云。た。た。名。利。の。と。あ。い。お。難。口。さ。う。ん。事。と。一。と。を
 あり。と。修。ひ。け。も。海。る。と。名。利。と。さうり。と。え。隱
 道。の。と。さうり。お。家。の。と。さうり。と。え。と。純。の。佛。道。り
 思。ひ。の。と。さうり。此。心。と。ゆ。て。實。の。と。さうり。古。人。の。因
 め。鈍。た。う。者。は。財。と。色。と。欲。を。一。利。た。う。者。は
 名。と。見。と。知。若。と。や。つ。つ。此。故。也。或。は。世。と。さうり
 とう。姿。と。さうり。名。と。知。人。と。さうり。或。は。徳。と。さうり
 とう。は。う。と。さうり。放。逸。た。う。者。と。わ。ら。う。と。さうり

象の窓とさうり。身は。つて。修。校。尾。と。さうり。
 つて。解。め。と。是。て。佛。は。回。て。ま。り。一。中。を
 釈迦佛の遺法の身子。あう。と。さ。家。と。お。さ。り。と
 云。た。た。名。利。の。と。あ。い。お。難。口。さ。う。ん。事。と。一。と。を
 あり。と。修。ひ。け。も。海。る。と。名。利。と。さうり。と。え。隱
 道。の。と。さうり。お。家。の。と。さうり。と。え。と。純。の。佛。道。り
 思。ひ。の。と。さうり。此。心。と。ゆ。て。實。の。と。さうり。古。人。の。因
 め。鈍。た。う。者。は。財。と。色。と。欲。を。一。利。た。う。者。は
 名。と。見。と。知。若。と。や。つ。つ。此。故。也。或。は。世。と。さうり
 とう。姿。と。さうり。名。と。知。人。と。さうり。或。は。徳。と。さうり
 とう。は。う。と。さうり。放。逸。た。う。者。と。わ。ら。う。と。さうり

心行を察して名利の元とつて執著の氷と
とくをまじとや

冥ミヤコ凡ヒト佛法ミチは記ツキする物モノ給タマふ事コト

洛陽ラクヤウの女メ房ボウ冥ミヤコ病ヤマトをけしむは種タネくくりにいひのり
けしむとと有ア驗ゲンののりともおさびさわりひき
かよふとてそごらとてくかり東山トウサン觀ケン德トク寺ジの
上人ジョウジンの符フとりのまじは物モノ程ハジの者モノとありあり
とありけしむ彼カ符フとりのまじととらふらと
らひくふの符フと我ガまじり彼カ法ホウ成セイ就ジュの人ヒトあり
道心ダウシンを人ヒトあまをたつたたくとりのまじと
又マタ上人ジョウジン代ダイ符フとりのまじととらふらと

くくりにいひのり此コノ我ガまじりた
秘ヒしめられたり又マタあり若ニシ信シンの符フとて
けしむとと有ア驗ゲンののりともおさびさわりひき
かよふとてそごらとてくかり東山トウサン觀ケン德トク寺ジの
上人ジョウジンの符フとりのまじは物モノ程ハジの者モノとありあり
とありけしむ彼カ符フとりのまじととらふらと
らひくふの符フと我ガまじり彼カ法ホウ成セイ就ジュの人ヒトあり
道心ダウシンを人ヒトあまをたつたたくとりのまじと
又マタ上人ジョウジン代ダイ符フとりのまじととらふらと

畜乃心也。佛恩大ありと云ども。かくればと云物
 と云つて母と云事ありと云て。かくと牛と
 くひたり。凡そ一念乃心中。十界乃性あり。地獄。餓
 鬼。畜生。傍羅。人天。聲聞。縁覚。菩薩。佛界あり。
 性と云ハ色形乃云々と云。その體性天經として。
 わく海くびりて内よ有と云。花の中。果
 と云。之性あり。本れ中。ゆへに火乃性。何んが
 じし。縁ありあひ時と云と。あつと云と相と
 つたり。縁ありの道と云と。あつと云と。その縁と云ハ
 善惡の業なり。十惡乃上中下。地獄。鬼。畜。生。
 佛。羅。人。天。乃縁とあり。三善道乃相ありと云。四

諦十二因縁ハ三業乃縁となり。六度無相の行を
 菩薩佛界の縁となれ。あつと云と。前世の十善乃
 業因。今生に人身の果となり。今生に心中より
 思ひをも。はつと云と。善惡の業因。どうりのものと
 云。心がどく。一。ある。童の業。其果と感。心
 一。が乃ちれ僧。云云。人。身。と云。信。と云。つり
 之。と云。戒。智。あり。信。施。消。びり。て。畜。生。の。業
 心。よ。あり。け。れ。故。ゆ。人。身。や。あ。り。て。畜。生。と。あり。つ。
 危。と云。思。ひ。今。世。乃。人。の。か。ま。に。と。つ。び。つ。
 虚。信。施。を。受。乃。む。ら。ひ。多。く。ハ。地。獄。乃。身。を。さ。る。當

へたりたる。傍ハ佐施のゆへにしにあり。人のく
 ーとよりかきつる事ハれあどけき。在家の人
 色。此事とわさまへて仁義禮智信の五常と海
 かり。國とやとくー民とあはせ。人のわづら。物
 此の忠とまり。欲とくめ。情とくさ。仁慧わう人
 へ。末代。とくくあ。仁慧わう王と
 志書乃中。ハ碩鼠碩鼠。我税と食と。ウひく
 大あり鼠の穀と。ウひく。食と。れ。また。ハ
 王ハ天下の父母と。て。教人。わ。や。と。せ
 たる。百官又それ。乃事と。王乃。た
 仁と。た。王。

一。御。仁義をく。て。は。海。國。を
 屋の事。移す。乃。と。り。又。大海の底に
 穴あり。と。尾。回。と。法。河。乃。水。日。取。入。と。
 みの穴。入。く。と。れ。海。水。増。せ。四。海。民。農
 桑。して。王。よ。と。ま。つ。と。の。わ。く。と。に。と。ふ
 官。禄。と。わ。か。づ。君。母。忠。あ。く。民。母。慧。あ。つ。て
 一。つ。つ。母。國。と。つ。い。御。民。と。な。ま。れ。ハ。第。二。志
 戒。乃。海。一。む。所。よ。わ。と。れ。志。つ。新。と。れ。未。身
 母。此。の。の。る。と。あり。信。衆。乃。法。母。と。む。の。よ
 わ。と。俗。人。乃。律。令。母。違。と。る。事。是。れ。知。道
 俗。母。欣。心。わ。く。智。母。ゆ。く。と。の。つ。と。法

どいつんや飛と又いつく。空二有。一其の悪空。法
法の空也。つひく。心とり。いまよ。わく。と。は。ん
れ。二其の善空。法法の善法なり。悪と。か。く。積。善
と。行。ど。善。の。空。に。順。一。悪。の。空。は。た。び。ひ。わ。る。ゆ。也。
し。つ。り。悪。見。の。人。の。意。法。性。の。道。程。も。さ。ひ。り。り。空
と。つ。ひ。善。著。の。心。善。法。の。不。可。得。の。程。を。達。せ。り。
と。つ。り。あり。不。可。得。あり。執。著。あり。水。月
鏡。像。と。貪。や。れ。が。し。り。す。て。は。悪。と。つ。り。著。自
に。よ。わ。る。ど。若。あ。せ。と。若。あ。し。と。若。あ。く。著。あ。く。の
ち。し。し。な。り。の。せ。ん。又。空。な。り。故。は。作。と。つ。り。若。も
空。と。是。と。な。り。一。御。う。に。悪。見。の。人。の。善。の。い。は。す。

ひく。あ。る。い。は。悪。と。い。の。も。は。は。つ。り。と。そ。も。愛。志
あり。何ぞ平等の道。其ふ。つ。り。又。善。の。有。相。なり
や。い。ん。と。悪。と。の。し。く。有。相。なり。た。く。妄。情。の。の
ん。う。あ。ひ。く。佛。教。の。ひ。ひ。も。さ。じ。り。大。乘。の。学
者。の。中。も。ま。よ。は。妄。見。と。發。見。人。天台。止。觀。を
中。の。ま。つ。り。く。釋。也。大。乘。の。法。に。邪。見。と。か。し
と。そ。も。藥。と。毒。り。な。り。ひ。く。と。そ。も。醒。醒
翻。の上。味。世。の。珍。と。も。悪。見。の。人。を。毒。菜。と
と。や。い。り。り。古。人。の。つ。り。座。氷。月。の。道。場。一。修。空。花
の。萬。行。と。降。鏡。像。天。魔。と。威。夢。中。の。佛。果。と。是
ゆ。く。れ。と。な。り。い。は。れ。く。心。行。なり。悪。見

の人のうけあはる。ふりて起信論の四の
と信と云ふ。之の真如と三寶と云ふ。真如
を三寶の妙體。三寶の真如の妙用なり。此の
なご事と云ふ。信せんや。天台の云く。但信法性不修
其餘。之此信の道源功德の母なり。之の
し。佛法に入ると云ふ。内。正真如と信し
外。因果と信す。是佛法の大意なり。此
道理の云く。無礙の見を修む。故逸を
事と約せむ。道人の儀あり。釋子の風
と云ふ。佛法と云ふ。之と云ふ。魔業と
云ふ。華嚴經の云く。菩提心たれば

の意の叶なり。是道人の龜鏡也。それ
經の文を引て。彼語を證明し。行人の用
意。学者の故實なり。終に我心行を察す
て。魔業と云ふ。信し。之を修む。正見
戒められ。正見なり。福田の義を
十輪心地等の經に。僧寶と云ふ。戒律を
正見あり。人の怨也。福田の義なり。此由
經の中。委しく判せり。先徳の云く。發心辭
越。一萬の徒。施すと云ふ。之を修む
る。無益の苦行。外道の法なり。

汝石集卷第九下終

神護寺

迎接院

軌元二曆（元）季春之候（元）此書道證上人奉渡畢

道慧

于時軌元第二之曆（元）季春初之六日於洛陽之

西山西方寺重又一部書寫之次此卷前後

一枚書改之畢片山隱士道慧春秋又十四

汝石集卷第九上

目錄

佛（佛）教（教）乃宗（宗）旨（旨）之得（得）人（人）事（事）

ちてまう道む便あくやつひささうて熾火なりんぢ
 一く相續せしハ智恵れ相おり一まむとむと
 人ともぞく結つべ。我身れ事一なり一く一作
 けん。元ハば山く山がまうそてゆりか。切ぬのそと。具
 續寺れ。或傍存よそて。字心仕つる一う。悪るまも
 無下めりゆつぐ。拙ちなりゆり一かどよ。お家
 の後。まの通れ。そてまうく。そ法あんとと。此とめ
 ゆり一が佛法のち意ハ生死のぼてんをくら
 善悦ハ。妙果とゆも。一とく。そまう。よ。学者
 の意樂。そと。今生ハ。名刹。榮耀と心う。一く。お
 力れ。そ。い。友。逢。れ。や。の。と。ま。て。一。徹。居。れ。け。儀。た。り。く
 唯識の観念のし。風情。佛意。も。と。そ。む。さ。法
 門の。が。ま。て。母。と。く。か。つ。び。そ。し。ゆ。り。一。く。そ。結。も
 と。あ。く。ゆ。り。一。と。叶。通。あ。く。ゆ。り。一。傍。出。身。を
 心。れ。な。り。さ。り。の。そ。く。常。よ。ま。う。を。ぬ。り。ゆ。り。そ。て。ゆ。り
 一。か。や。母。父。と。く。ゆ。り。ゆ。り。一。者。れ。づ。さ。つ。事
 一。ゆ。り。一。く。看。福。な。ん。ど。信。う。そ。く。日。集。れ。之。ゆ。り
 一。程。に。凡。ま。れ。あ。ひ。の。は。さ。あ。さ。ハ。隣。の。百。姓。が
 女。よ。と。り。ゆ。ひ。お。ぞ。て。父。死。下。て。後。と。一。人。子。せ
 ゆ。り。一。ま。う。に。げ。家。と。此。ま。て。お。置。れ。な。り。ひ。な
 ま。む。の。業。あ。ん。ど。り。お。出。く。つ。ま。く。と。れ。之。ひ。び。こ
 ま。う。山。が。め。な。り。と。そ。く。一。の。一。さ。た。が。ま。

ちてまう道む便あくやつひささうて熾火なりんぢ
 一く相續せしハ智恵れ相おり一まむとむと
 人ともぞく結つべ。我身れ事一なり一く一作
 けん。元ハば山く山がまうそてゆりか。切ぬのそと。具
 續寺れ。或傍存よそて。字心仕つる一う。悪るまも
 無下めりゆつぐ。拙ちなりゆり一かどよ。お家
 の後。まの通れ。そてまうく。そ法あんとと。此とめ
 ゆり一が佛法のち意ハ生死のぼてんをくら
 善悦ハ。妙果とゆも。一とく。そまう。よ。学者
 の意樂。そと。今生ハ。名刹。榮耀と心う。一く。お
 力れ。そ。い。友。逢。れ。や。の。と。ま。て。一。徹。居。れ。け。儀。た。り。く
 唯識の観念のし。風情。佛意。も。と。そ。む。さ。法
 門の。が。ま。て。母。と。く。か。つ。び。そ。し。ゆ。り。一。く。そ。結。も
 と。あ。く。ゆ。り。一。と。叶。通。あ。く。ゆ。り。一。傍。出。身。を
 心。れ。な。り。さ。り。の。そ。く。常。よ。ま。う。を。ぬ。り。ゆ。り。そ。て。ゆ。り
 一。か。や。母。父。と。く。ゆ。り。ゆ。り。一。者。れ。づ。さ。つ。事
 一。ゆ。り。一。く。看。福。な。ん。ど。信。う。そ。く。日。集。れ。之。ゆ。り
 一。程。に。凡。ま。れ。あ。ひ。の。は。さ。あ。さ。ハ。隣。の。百。姓。が
 女。よ。と。り。ゆ。ひ。お。ぞ。て。父。死。下。て。後。と。一。人。子。せ
 ゆ。り。一。ま。う。に。げ。家。と。此。ま。て。お。置。れ。な。り。ひ。な
 ま。む。の。業。あ。ん。ど。り。お。出。く。つ。ま。く。と。れ。之。ひ。び。こ
 ま。う。山。が。め。な。り。と。そ。く。一。の。一。さ。た。が。ま。

たき。蒼頡が書と傳へた。三宗は總とひとひ。本
 とさうさうにあらざるなり。人の心とれと
 一時の事かきさく繩とひとび。さかすたが
 一。字とあふれ代ふ。さうりありとさう
 こまごましく。佛教も凡夫の惑をくわあさる
 なる。い。寂靜。凝結。凡聖あとな。迷の
 衆生。移これ見とわう。さうさう。生むるゆ
 一。やびるさう。して。ふ。字とあさる。云。説
 かう。て。さ。と。導。さ。なり。故。法。花。白。
 但。修。名。字。導。於。衆。生。と。云。衆。生。を。著。
 之。令。得。也。と。説。く。衆。論。さ。く。修。持。信。者。

封。石。志。象。者。然。也。極。於。目。形。也。畫。於。方
 圓。方。圓。有。所。不。空。我。目。有。所。不。傳。云。云。さ。く。は
 一。と。法。宗。れ。と。の。つ。云。象。れ。外。よ。あ。る。ゆ。え。こ
 び。か。う。な。る。法。花。也。法。寂。滅。相。不。可。説。
 言。宣。と。の。ゆ。い。海。し。れ。不。な。り。以。方。便。力。と。ゆ。
 也。此。也。此。也。心。事。ゆ。て。修。行。さ。る。ゆ。え。
 と。り。く。引。導。志。路。さ。り。な。り。祖。師。さ。る。ゆ。え。
 事。の。實。也。い。わ。る。ゆ。え。凡。夫。れ。法。さ。る。ゆ。え。
 也。母。和。光。同。塵。乃。心。な。る。下。方。便。力。と。ゆ。ハ
 其。實。也。不。あ。る。ゆ。え。さ。の。母。慈。悲。と。ゆ。ゆ。
 大。權。徳。と。ゆ。一。向。は。祖。師。と。ゆ。り。ゆ。え。又。大。さ。

圓光よしく始知在生中其然生光涅槃
如昨身もさく。生死の迷あはれとあり。始光の
善光も善也と云り。中身の知んて然れ電光
万物よまきし。六塵にけがさる。善光の
大我自己の實證之げ。百八非凡。善光の
かく悟とあり。善光の此風光中身の面目と
なり。これゆへに益深云。結佛の世に生れし
て生死となく涅槃ふつと云り。何れは
善光と稱ふんと。二見をたきとあり。二見
二見はそれつらたれ。善光のあり。善光の
なり。何れは一代の教門にあられ生れしと云り。
我手使あれも。かゝの言説なり。かゆは天台
の師も。教權は實といひ。凡そ教門に是れ權
ありと云り。理實といふなり。理と云相と云り。
善光の心。教れ權と對して。云々。善光
れを。理といふなり。理を。權といふなり。
三強師も。二諦。唯是教門。不用。後理といふなり。是も
後理といふ相なり。二諦。教門に。至理。あり。云々
と。と。云々。法宗。皆。機と。引。方便。教門と
あり。云々。實證。れ。云々。云々。法相。あり。云々
言説。と。云々。依。論。と。云々。有。為。善。三。諦

圓光よしく始知在生中其然生光涅槃
如昨身もさく。生死の迷あはれとあり。始光の
善光も善也と云り。中身の知んて然れ電光
万物よまきし。六塵にけがさる。善光の
大我自己の實證之げ。百八非凡。善光の
かく悟とあり。善光の此風光中身の面目と
なり。これゆへに益深云。結佛の世に生れし
て生死となく涅槃ふつと云り。何れは
善光と稱ふんと。二見をたきとあり。二見
二見はそれつらたれ。善光のあり。善光の
なり。何れは一代の教門にあられ生れしと云り。
我手使あれも。かゝの言説なり。かゆは天台
の師も。教權は實といひ。凡そ教門に是れ權
ありと云り。理實といふなり。理と云相と云り。
善光の心。教れ權と對して。云々。善光
れを。理といふなり。理を。權といふなり。
三強師も。二諦。唯是教門。不用。後理といふなり。是も
後理といふ相なり。二諦。教門に。至理。あり。云々
と。と。云々。法宗。皆。機と。引。方便。教門と
あり。云々。實證。れ。云々。云々。法相。あり。云々
言説。と。云々。依。論。と。云々。有。為。善。三。諦

涅槃と釈と第一ハ本來自性清淨涅槃。是凡
 聖皆有之。其如の體也。第二ハ有為。第三ハ無為
 々々。是ハ小乘の涅槃あり。第四ハ無任涅槃。こ
 大乗の菩薩はとゞなる。然此所知はさるる
 とゆらと。衆生と利と。此と。縁と。ゆらと。
 大悲般若常所流轉。覺世新不住。生死涅槃利
 益有情。窮未來際。用而常寂。在名涅槃。と云
 涅槃の翻語。わらと。是わらと。不生不滅。寂靜
 圓寂。安樂等也。是ハ寂靜の心なり。法苑の
 四要あり。親善ハ涅槃あり。縁と利益。これ
 此ハ無任涅槃なり。有相無相不二なるを性

相と有令と。一。是涅槃と。此ハなり。偏一法
 任と。ハ大乗の法。わらと。法門心と。一。法
 苑。具三十二相。乃其美滅と。此ハ心之滅ハ
 了れら。寂滅涅槃之業。論。法門あり。か
 たり。亦寂亦動。亦動亦寂と。凡ハ生死
 一著と。智恵あり。二乘ハ涅槃。著と。慧慧
 美の。只菩薩の意深廣。無礙と。てあり。
 作てゆらと。一。大乗の修。こらと。わらと。
 信心と堅固也。偏ハ邪路。入る。終て
 ひと。道理之。法相。秘事之。縁と。心
 中。朽と。書付たり。心わらと。人ハ

て感^んず^る所^{あり}なり

波石集卷第十上終

波石集卷第十上

目録

修^り終^る目^録出^づる^事の^事傍^りの^事
 達^り仁^の寺^に本^に於^て傍^りの^事
 長^く樂^の寺^に榮^る朝^の上^の人^の事^{なり}
 壽^の福^の寺^に朗^く答^ふ上^の人^の事^{なり}
 松^の清^の法^の心^に上^の人^の事^{なり}
 述^ぶ懷^のの^事

汝石集卷第十

修溪園出々之傳の事

中右の徳宗の先徳のゆゑに和漢の傳へ載
あり。而して智の徳とけり。修溪の宗定に
入ぐ。其の別の奇物あり。安んじて化を
り。もるに奇異の事あり。その道は
身と入る。解脱の心成る。この宗も
一のせん人。一編の修溪の儀を
修の道儀とせり。まづに教門と
ども善を期する心。世の
なむいぬ。まづ其の頭
乃て人

修溪園出々之傳の事

終智菩薩の弟子なりて。密教の唐土より海
 路より。唐の儀より入る。三代さるるなりや。之
 と。息王佛法と云ふ所の。けり。時言らるる。の
 言書あり。は。秘法して。肉裏に秘さる。
 流布せざる。ゆへに。母を。その。地の。聖教の。國に。不
 り。流布せし。ゆへに。入る。せ。せ。と。云。云。教。と。ハ。傳。教。
 弘法。意。見。智。證。等。ハ。大。師。我。國。一。わ。く。は。法。を。り。
 毛。も。有。縁。乃。ゆ。え。な。り。く。り。あ。り。く。り。あ。り。く。り。あ。り。
 惠果大師ハ。弘法大師の母なり。法をつら。く。と。も。母も。
 人の貴き。ハ。國王。法の貴き。密教。冒地。の。傳。と。云。云。
 母ハ。わ。り。く。り。は。法。母。の。事。ハ。わ。り。く。り。は。法。母。の。事。ハ。わ。り。く。り。

とも。及。銅。の。ひ。わ。る。く。終。始。の。け。國。ハ。天。台。
 念。此。有。縁。乃。國。也。法。相。三。論。華。嚴。等。ハ。亦。教。東。
 大。師。真。禪。寺。の。事。ナ。リ。是。國。母。流。通。セ。バ。律。
 儀。禪。門。ハ。之。比。真。儀。也。上。古。より。人。人。と。も。と。
 あり。ひ。ゆ。せ。ど。も。道。宗。れ。と。り。た。り。母。わ。り。あ。
 機。縁。時。つ。と。り。は。是。て。は。時。つ。と。り。も。律。儀。も。
 禪。門。も。當。世。流。布。セ。り。比。時。縁。と。ひ。と。比。戒。行。と。
 ま。り。の。里。座。禪。と。修。ま。り。法。相。天。台。の。學。者。と。も。
 分。け。り。と。も。末。代。ハ。座。禪。修。練。し。て。唯。識。の
 觀。念。の。儀。の。事。ナ。リ。人。も。唯。識。の。事。ナ。リ。只。編。

談決擇して一。宗は權實の別あり。教
は淺深を編む。一期は宗いと生れあたるは
淨土の何ゆゆとてさそく。或は念佛。或は
善惡の別ありてあひまづる。海とに湯に
のぞきそ井をわらぐ。一。色一。ちよん
生死とてさそくありし。平生にさそく
あそくめ。切とほびてさそく。名利とあたるは
して。宗後のそんで忙然とあり。多あり。じ
く。上野の國山とての善に。仍仙居とて。中
淨道修都れ弟子。善云師たりたり。也。也
念佛の行者あり。たつとさ上人とての也。也

弘安元年。秋の比。滅宗の年。一。明年。修治と
なす。月日。病れ事を記して。衆の中。善云。善
子。色とて。後後。よひつとて。さそく。一。教
宗。念佛者。たて。教。返。あんと。は。か。く。一。く。
親念とて。ひ。ひ。して。教。の。世。同。の。の。心。た。り。さ
よ。ん。あり。り。中。説法。の。修。法。も。人。れ。さ。あ。く。徳。む。れ
を。時。よ。れ。を。て。不。可。思議。の。小。夜。を。さ。た。り。り
さ。く。ま。ゆ。刀。勝。よ。う。な。り。説法。志。な。ん。ど。ひ
布。施。ひ。ひ。を。別。し。と。せ。む。さ。る。ま。と。せ。ひ。き。ま。く
ゆ。い。さ。り。の。ら。ふ。さ。ゆ。よ。り。月。ひ。り。の。世。良。回。れ。明
富。長老。と。得。意。あ。く。考。に。佛。法。初。終。な。ん。ど

實母の凡聖不二の一實境也。名号と念一。
相好と親心は妙用。付て先有相と云く方便
して。念身は益と縁心。念身は念仏也。一念不
生は法身は體也。念身は念仏なり。結念所念
なり。不二の念仏也。先縁起は法力とめて。用者性
生は身人もあり。先相用はつきて性生して後
念身とめて。法身と悟も。體用不二の念は念
修へく。諸佛は法身。自心の實體靈覺不
二あり。念身は念仏なり。信せし用の性生と安く
して。念身は念佛門の人。心地の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも

法華經 卷第十一

念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも
念身は念佛門。念言は念も。念佛の修行と云くも

とある生所を判^えと云ふ所中有^て成^つと云ふは
あ^らま^りの^しら^べで^あら^まり^の上^に生^れ住^すと^るの^後
て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後
て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後
妻^の福^寺に^ある^る老^僧者^とを^法行^ると^るに^あれ^る
年^來の^何字^親と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
り^のが^或時^長老^母對^面して^はと^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
さ^らに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
あり^とさ^らに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
あり^とさ^らに^あり^つが^親心^成枕^とる^る

て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後
て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後
て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後
て^は生^まる^るとして^は王^の女^とも^なら^ずと^るの^後

達仁寺中^に礼^儀正^の事^也

左^に達^仁寺^に礼^儀正^の事^也威^儀と^る
り^のが^或時^長老^母對^面して^はと^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る
念^仏と^るに^あり^つが^親心^成枕^とる^る

四年勤轉技門之困塞在之時元來無主誰
又去之官類老豈惜之法夜月困松風為自
非我客誰亦知音建長寺之老元庵和
尚此一之過のりハ日本國ハ有之智者也
勿慮も道心もをぐてさ上人と凡そ有りさ
そのつとま言よ付く心地をひく人をもさ
こゝろをのりして。子日の護摩の法法の
そ我佛法の心地と為たりと。諸人一人有りさ
松徳乃法心上人此事
奥州松徳乃長老法心庵ハ家の人として一文

不通かりの道とて。後案して。松山の無準和
尚の下あり。圓相の中ハ丁の字ハ云案と為て
燈禪と云ふ事。多年。死よりさあてうとらり
ひいあんどれあつはどぬのさぞも。九年まで
常燈一のり云案の丁字。うろ川乃のの中よ
んてりつとらなうらう。心地ありていひあり
そ後案相して松徳乃をさそをひける。松
徳の事。ちるまそむかひをなす。侍者よはらる
下なるつとらありあさゆは信ぜび。去日ありて
奇了よ侍者よ。侍者よ。辞世の頌をかくと
来りて。時を明たり。まは時をゆくとらり。と

ハ善哉ととりて。南山のつと。解藏苦とと
くつびとて法義と心ゆらり升ハ苦とまあり也
どもとつり。當て湛然の心地とて。不離當處常
乃理と述とて。永嘉云く。不離當處常。湛
然見外知君不可見。是修行の行。親切の行
示也。西天ハ祖師云。心隨法境轉。處實德也
隨流認得性。無喜亦無憂云。永嘉の詞。祇に
おうあり。當處ハ刹義境。處實ハ流注とつり也。
湛然ハ師義境。海とれ性之。水動して流とあり。
流の所刹。求復。復くハ可と信とつり。家に行
う。こうつり。我又かくつり。大無程師のつく。世もれ

法と字とつりハ。儀心思と用ハ。さばあ。つらむ。お
世の法と字とつりハ。儀心思ととらつら。つらむ。お
只つひハ。心は。皆世間ハ。處實也。佛法ハ。信。道
新。心ハ。所滅也。是也。世の道也。智。海。云。有念ハ
刹。義。境。無念ハ。刹。涅槃。あり。道人。あり。人。終
徳。思。ひ。つ。く。る。道。理。なり。と。法。心。房。上。人。
佛。法。ハ。心。地。と。ゆ。ふ。字。よ。う。う。う。う。う。う。う。う。
心。の。深。さ。に。あ。り。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
と。や。善。哉。ハ。身。あり。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
乃。と。退。ま。へ。う。う。東。福。寺。用。山。一。眼。芳。母。う。う。
く。盲。て。かり。う。う。う。う。時。相。持。う。う。法。心。房。上。人。

首と送りまわすは
 不來猶自はく氷母殿に眼は用事ありたりや
 乞とせりれんかしくして用山はかりしれり
 心他ありや也。注に氷母の食とがしりよ。海船と
 りるもく目ともやつり。くくげ目ならさまうに
 多びとつきて。の目とらして食とりしりる
 なるも。不來は面目のくくげ四大和合はるもの
 まあし何のせん。うり物ありともありつるや。海し
 中心を和秋あり。又式時の歌よ。楞嚴經の
 海ももるなり
 是のてやをりかもあやうい何とぬまてあは

是もくくくくく。義法のそのゆしとあつて
 運為とれんたりと。佛法の意をわて。その度
 くくくく。のくくく。のくくく。又を年以來
 此の寺乃古老の入。何きも目せくくや。ゆるり
 我具よ注とわい。わくく。これるあつ。くく。の
 くく。川と代。此寺古老。此事。當代か。ま。く。人皆
 志。く。仍不記。大覚禪師。聖一和尚
 佛光禪師。佛眼禪師。無用禪師
 拜世乃頌等。くく。可記。定款
 速懐の事
 杯は。後。の。方。録。序。母。古。對。の。り。と。く。も。に。

經年（今）月（今）今年續（今）草（今）之仍前後其語不同
有款為後見不審御記（今）之又曰事（今）と定（今）書
之老後忘却有心人必可令加添削給耳

汝石集卷第十下終

此集行于世尚矣本有廣略條有前後不知
孰是也頃幸得無任仰之盛氣正女（今）也
不（今）誌蘊藏於寫遂傷于降十月所視宜其稱
平勿致疑（今）

天和三癸 閏五月吉日
吉野屋徳兵衛枝行